

青年部の視点から臨床検査の SDGs を考える

～「楽しむ」と「つながり」を臨床検査の基礎力に変えて...奈良若草の会が目指す場所～

◎森山 美奈子¹⁾

地域医療振興協会 市立奈良病院¹⁾

奈良若草の会は2019年、「臨床検査技師を楽しむ」「横のつながりを増やす」をコンセプトに、奈良県臨床検査技師会 会長直轄の組織として発足しました。第一回対面企画がコロナ禍により断念することとなりましたが、これを逆境にWEBによる企画を重ねてまいりました。奈臨技会員へのアンケート調査や臨床検査室紹介などの企画で仲間を増やし、そして2025年度には、念願だった懇親会付きの対面企画「奈良学会に行こう!!2025!!」をようやく結実させました。同じ空間で一緒に笑い、語り合えることの、楽しさと大切さを改めて実感しています。

青年部の視点で臨床検査のSDGsを考えたとき、根底にあるべきなのは臨床検査技師一人ひとりの日々の充実です。私たちは「臨床検査技師を楽しむ」を原点に、このシンポジウムで出会った近畿の仲間との「横のつながり」を未来へ広げ、臨床検査の基礎力を磨きます。そして、若手が主体的にライフワークバランスを選択し、誇りを持って働き続けられる、輝ける場所を提供し、共に楽しむ存在でありたいと考えます。

青年部の視点から臨床検査の SDGs を考える

福井県臨床検査技師会青年部の取り組み

◎齋藤 清隆 ¹⁾

福井大学医学部附属病院 ¹⁾

2026 年 4 月、福井県臨床検査技師会総会にて青年部会の発足を報告した。発足の契機は、2024 年に参加した地域ニューリーダー育成研修会にて他県の活動を知り、会員数が少ない福井県だからこそ、施設の枠を越えた若手の繋がりを築きやすいのではないかと考えた。総会での神戸翼先生によるご講演を皮切りに、7 月には福臨技の活動報告と青年部会の目標を共有する研修会を開催した。今後は、りんわくプロジェクト様の協力のもと、キャリアデザインをテーマとしたボードゲームも企画している。本活動を通じ、若手技師の交流促進と学会・研修会への参加支援を行い、職業人生を楽しみながら成長できる機会の創出と、持続可能な運営を目指していきたい。

連絡先：0776-61-3111（内線：3382）

青年部の視点から臨床検査の SDGs を考える

滋賀県臨床検査技師会青年部の取り組み

◎國友 孝輔¹⁾

社会福祉法人恩賜財団 済生会守山市民病院¹⁾

本講演では、滋賀県臨床検査技師会青年部の設立経緯とこれまでの活動ならびに今後の展望について報告する。

滋賀県青年部では、職場や部門を超えた若手会員同士の『横のつながり』の構築を目的として活動を開始した。また、県内の若手技師との交流会や学術部との合同研修会を企画するなど、主に県内若手技師同士の交流促進に力を入れながら、次世代の技師会活動を担う人材育成と組織力向上を目指してきた。

昨今、部員も増加し、SNS 運用を本格的に開始するなど取り組みも多様化している。さらに、県外青年部主催の研修会等に参加するなど県内にとどまらず、さらなる活動の展開を図っている。

連絡先—080-3134-7156

青年部の視点から臨床検査の SDGs を考える

京都府臨床検査技師会青年部の取り組み

◎横山 健輔¹⁾

社会福祉法人 京都社会事業財団 京都桂病院¹⁾

京臨技青年部は一昨年に発足したばかりのまだ歴史の浅いものであります。発足した経緯は、私が京臨技理事を務めさせて頂いており、日臨技のニューリーダー研修会に京臨技代表として参加させて頂いたのがきっかけでした。その研修では、どうすれば日臨技が盛り上がっていくかを議論するグループワークを行いました。どのグループの結論もいわゆる「若手」をいかに引き込むかというものでした。やはり地臨技単位で見てもこの「若手」に関わって頂くことがかなり重要であると感じ、我が京臨技でもそういった受け皿を作りたいと考え、理事会にて発案、承認を頂き発足へと至りました。発足後実現した活動はまだ数回ですが、理事や若手の方々、他臨技の青年部の皆さんと良い関係を築きながら盛り上げていければと考えております。

連絡先 京都桂病院 検査科 (075)391-5811 内線 3231

青年世代がつくる臨床検査の未来

SDGs 時代の技師会活動とは

◎神戸 翼¹⁾

医療法人社団永生会 永生総合研究所¹⁾

人口減少や医療 DX、地域医療の変化などにより、臨床検査技師を取り巻く環境は大きく変化している。その中で、青年世代には、日常業務だけでなく、組織や地域、業界の未来を考えながら行動していく視点が求められている。本講演では、日本臨床検査技師連盟青年部や「りんわく」での活動紹介を交えながら、「働きがい」「教育」「地域とのつながり」など、SDGs の視点からこれからの技師会活動について考える。また、持続可能な業界づくりには、“やらされる活動”ではなく、自ら楽しみ、周囲を巻き込みながら行動する「わくわく」の力が重要であることにも触れ、青年世代が未来を創る意義について共有したい。